

カメラ ま ち の 出 来 事 あらかると

広報たかはし

広報たかはし

弦に合わせて (1月15日 備中保育園)

「ふれあいコンサート」が開催され、園児らがギターとハープの2重奏を楽しみました。

備中保育園の園児のほか、西山保育園、富家小学校1年生、保護者や地域住民を招いての同コンサートには、アイリッシュハープ奏者のMachikoさんと、川上町地頭出身でアコースティックギター奏者の森川敏行さんによる2人組「さらさ」が出演。童謡やアニメ曲が演奏されると、子どもたちは演奏に合わせて元気な歌声を響かせていました。



弥高に響く健康への祈り

(1月17日 川上町高山市)

川上町高山市地区で「とんど祭り」が行われました。この地区に伝わる祭りは、手作りのみこし型のとんどで地区内を練り歩き、無病息災や家内安全を願うもの。

吉備国際大学生も参加し、約3カ月かけて杉の葉やわらで作られたとんどは、太鼓や掛け声とともに地区内を巡回。その後、公民館広場でしめ縄などとともに火がつけられ、参加者は焼かれたもちに舌鼓を打ちました。

盲導犬との触れ合いを通じて

(1月26日 高梁小学校)

高梁小の4年生67人を対象に、盲導犬の体験学習会が開催されました。視覚障害者で盲導犬使用者の山本均さん(頼久寺町)と高梁ライオンズクラブが、市内外の小中学校を訪問し開いているもので今回が100回目。障害のある人、盲導犬との触れ合いを通じて、子どもたちに思いやりの心を育てるのが目的です。

子どもたちは、アイマスクをして盲導犬ヴァニラとの歩行にも挑戦。講話や体験を通じて、障害のある人や盲導犬に対する認識を深めていました。



100歳おめでとうございます

2月2日に100歳(明治43年生まれ)の誕生日を迎えられた戸田艶子さん(有漢町有漢)を、市職員らが訪問し記念品や花束を贈って長寿を祝いました。

市内で100歳以上の方は2月2日現在で32人(男性7人、女性25人)。





私たちが考えた献立です(1月29日 有漢西小学校ほか)

全国学校給食週間(1月24日～30日)に合わせ、有漢西小6年生の考えた献立が、市内の小・中学校の給食に登場しました。今回の共通献立は、昨年10月に開催した小学生子ども議会での同小児童代表の「給食が身近なものとなるよう、自分たちの考えた献立を給食に取り入れられないか」との提案がきっかけで実施したものです。

この日のメニューはジャンボおむすび、豚汁、

サバのみそ煮、おひたしなど。栄養バランスや食べやすさ、地元産の野菜がたくさん使えることなど考慮し、地元の学校給食センター栄養士とも協議を重ね、6年生9人全員で考えた和食献立です。

有漢西小では、3年生と6年生が交流給食として一緒に会食。自分でのりを巻いて作ったおむすびや地元産野菜たっぷりのおかずを、おいしそうにほおぼっていました。

元プロ野球選手2人が講演

平松政次さん教育講演会(1月16日 文化交流館)

本市出身の元プロ野球選手で、現在本市の市政アドバイザーでもある平松政次さんの「教育講演会」(中央公民館・高梁地域まちづくり推進委員会主催)が開催されました。

「高校時代、毎日600～700球も投げ込んだことが春のセンバツ甲子園優勝につながった」など、自身の経験談を話しました。

会場には、小・中学生、高校生など野球関係者、市民など約300人が聴講に訪れ、熱心に耳を傾けました。



宮本和知さん文化講演会(1月24日 総合文化会館)

県内の社会人野球チームで活躍し、その後プロ野球選手として3度の胴上げ投手にもなった宮本和知さんの「文化講演会」が開催されました。

メンタルトレーナーのライセンスも持っている宮本さんは、時折ユーモアを交えながら「夢を持って、その夢に一步ずつ近づくことが大切」「窮地に立ったときは、別のことを考えて心を落ち着かせたほうがいい」などと話しました。